

2013年度 研究活動 活動テーマ一覧

★メインテーマ・サブテーマは参加メンバーで検討していただき変更可。

キーワード	活動内容検討(案)	メインテーマ(案)	対象部門もしくはクラス層
<b>■スマートデバイス</b>			
1 ・スマートフォン ・タブレット ・BYOD ・セキュリティ ・MDM	スマートフォン、タブレット端末などのスマートデバイスを利用する企業が増加傾向にある。個人携帯、端末などを業務に利用することによりBYODも注目されている。 また同時にすでに導入した企業、導入を検討している企業ともに、活用価値やセキュリティ、コスト面等の運用への懸念がある。 企業にとって今後のベストプラクティスは何か？ 世の中では既にタブレット端末を利用したソリューションが多く企業の効果を発揮している。 一方で、Window8の登場で、タブレット端末の選択肢は広がっている。 新たな活用意義、活用の仕方を生み出す。	■例示 【案】スマートデバイスの企業(業務)活用	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
<b>■ビッグデータ</b>			
2 ・ビッグデータの分析・活用 ・社会基盤システム ・マーケティングへの応用	ビッグデータを活用し、競争力のあるビジネスモデルを確立したり、新たなビジネス分野へ参入する企業が現れている。 ビッグデータを扱うことへの理解を深め、データ利用における課題やビジネス変革への活用を模索する。	■例示 【案】ビッグデータ利用におけるビジネス課題の解決に向けて	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
<b>■SNS/GPS</b>			
3 ・SNSの社内活用 ・SNS利用によるビジネス拡大	『導入済み企業、新規導入企業の課題として、「利用目的の明確化」「ユーザの心理障壁」「障害対応」「セキュリティ対応」などがある。SNS利用範囲、利用メリットや課題を整理し、SNSの特性を理解したうえで、利用の意味や課題解決策を考える。』	■例示 【案】SNSの社内活用(ビジネス活用)の有効性を考える	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
4 ・GPSの活用 ・アプリケーション連動	GPSと地図情報を利用した自動車のオートパイロット等、位置情報関連の最新技術の開発が進んでいる。 また、GPS付きのスマートフォンや高性能携帯電話の普及により、さまざまな情報が位置情報を付与することができるようになった。foursquare、コロニーな生活、位置を登録するソーシャルメディアやゲームが盛んに行われている。クーポン券や仮想的なアイテムによるユーザのリピーター化やマーケティング情報収集が行われており、新たなビジネスチャンスが生まれている。位置情報の技術、活用事例を研究することにより、ビジネスへの新たな活用の可能性を探る。	■例示 【案】位置情報を活用した新たなビジネス創造	部門および職位問わず
<b>■システム開発・開発手法・生産性向上</b>			
5 ・システム開発 ・顧客要求と仕様確定	業務システムの開発では、ユーザ側と開発側の認識相違により、開発中にも係わらず開発の仕様変更への対応が発生する可能性がある。どうしたら仕様凍結ができるのか？果たして従来の開発がその解決策になるのか？ 仕様変更への対応の考え方、開発工数への影響を抑えた仕様変更方法等を事例や新技術を取り入れながら考える。	■例示 【案】システム構築と仕様変更	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
6 ・アジャイル開発・WEB新技術	経営環境の変化のスピードに対応するため、短サイクルでのシステム開発の在り方について検討・研究する。また、HTML5やAjax技術など、今後のWeb系ユーザーインターフェースの可能性と標準化についても検討・研究する。	■例示 【案】短納期の開発手法の研究	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
7 ・生産性向上	いかに品質と生産性をあげるかは永遠のテーマである。 今回はいかに生産性を高めていくためのプロジェクトの検討する。 グローバルで見ると、IT先進国での管理手法など、参考にできる事例も多々あり、ベストプラクティスを収集し、たとえば、CCPM(クリティカルチェーン・プロジェクトマネジメント)などを試行して生産性の向上を検討する。	■例示 【案】生産性の向上を図るプロジェクトの検討	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
8 ・BABOK(Business Analysis Body of Knowledge)	“使えないシステム”をなくすために、顧客の業務を分析してニーズの背景を理解し、本当に望まれている機能をシステム化することが求められている。 ビジネスアナリシスの知識を体系立ててまとめられた「BABOK(Business Analysis Body of Knowledge)」をベースとして、ビジネスアナリシス・スキルの向上策を研究する。	■例示 【案】使えないシステムを作らない方法論	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
<b>■グローバル・ダイバーシティ・若手IT人材の育成</b>			
9 ・グローバル化	国内市場の縮小化、競争激化により、日本企業はその成長の場を海外に求め、企業のグローバル化が急激に進んでいる。グローバル化はいろいろな環境整備が必要になってくる。各国の文化、法制度などインフラ、サポート、標準化など企業のあるべき姿を検討する。	■例示 【案】企業のグローバル化を支えるITのあるべき姿	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
10 ・ダイバーシティ 企業活力、更なる企業躍進への道	企業においてダイバーシティをキーワードにした女性活躍推進の取り組みが進んでいる。経済産業省の研究報告では、女性活躍推進と経営効果について調査・分析され、女性の活用が生産性向上に繋がることが指摘されている。“「ダイバーシティ・マネジメント」多様な人材の“違い”をプラスと見ていかし、チームの成果につなげていく方策について考える”	■例示 【案】多様な人材をチームとして成果に繋げる方策	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
11 ・IT技術者／若手技術者 ・(入社3～5年生対象)	これからのIT発展を担う技術者の人材育成は、企業にとって重要な施策である。 システムに携わる人材は技術スキル取得をメインに考えている傾向が強い。しかし長い目で会社人生を捉えて人材育成視点、自己啓発視点を常に意識していく必要がある。 入社3～5年生は会社に慣れこれから目指すもの、会社側から期待されていくためには参加者が自ら考え、テーマとなりをすべきかなど、方向性を検討・決定していく研究活動、これらをさらなるビジネススキル、ITスキル拡大につながる。	■例示 【案】若手技術者が職場で活躍するために(参加者の方でテーマ検討)	入社3年～5年生クラス 若手IT技術者
<b>■IT戦略・リスクマネジメント・投資評価</b>			
12 ・これからのシステム部門のあるべき姿	タブレット端末やインターネット上の各種サービスが広く普及し、ユーザー部門の知識や要求が高まっている。 「ビッグデータ」のようにシステム面だけでなく、どう分析し、どう活用するかという目線やスキルが求められる時代になったと言える。これに対するシステム部門の果たすべき役割、IT企画人材としての育成を考える。	■例示 【案】これからのIT部門のあり方	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社 (マネジメント・リーダーを中心)
13 ・ITに関わるリスクマネジメント ・事業継続・BCP・BCM・災害対策 ・サイバーテロ／サイバー攻撃対策	東日本大震災や世界的に問題となってきたサイバーテロ、攻撃の脅威。 BCP/BCM構築に取り組んでいる企業や検討中企業では、事業継続計画とITの整合性を図るとコスト面が課題に挙がってくる。 また、どこまで対策を実施すればいいのかを思案している企業もある。 リスクマネジメントという観点から、確実な事業継続を実現するための現状課題を整理して、解決策を考える。	■例示 【案】ITリスクにおいて会社として何を最優先にすべきか？	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社 (マネジメント・リーダーを中心)

2013年度 研究活動 活動テーマ一覧

14	・IT投資評価	ホストコンピュータからオープン化が進む企業のシステムは、物理サーバの台数が増え、それに伴い、運用コストが増大傾向にある。 企業がITにかかるコスト割合はどれぐらいが適正なのか、増大しているITコストを削減するには、どのような対応がよいのかを視野に入れ、最適解を研究する。	■例示 【案】全体最適視点とIT投資に関して	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社 (マネジメント・リーダーを中心に)
<b>■クラウドコンピューティング</b>				
15	・クラウドサービスとオンプレミス	仮想化でサーバ統合したシステムを徐々にプライベートクラウドに移していくという使い方へと進んだ企業では、リソースをプール化して、必要なときに必要な量だけ使う体制や課金制度へと進んでいる。グローバル企業であれば国境や海をまたいで利用しやすいパブリッククラウドを利用して、コスト最適化に向かっている。反対に、絶対にダウンさせてはいけないシステムは従来型のオンプレミスのままだというケースもある。企業の情報システム部門としては、ハードウェアやソフトウェアのサポート停止による更改コストなど運用コスト、災害対策、新技術への適用スキル等の課題がある。企業の情報システムの今後のあり方をいくつかのテーマから方向性やあるべき姿を研究する。	■例示 【案】オンプレミス、パブリッククラウドとプライベートクラウドの棲み分け	IT企画部門 情報システム部門 情報システム・開発関連会社
<b>■業界・業種別</b>				
16	・物流業界	昨年度のテーマ「物流業務・業界における品質向上」の研究成果を踏まえ、参加企業各社の業務改善に留まらない「魅力的物流サービス」とは何か、その実現に向けた提言を期待する。	■例示 【案】物流業務・業界における品質向上と魅力的物流サービスの探求	物流企業のマネジメント層 物流に携わるメーカー担当者 物流に携わる小売業担当者
17	・流通/通販・小売業界	スマートフォンが生活に浸透し、あらゆるシーンでO2Oの活用が話題になってきている。リアル(店舗、イベント、4マスメディアなど)とネット(Webサイト、ソーシャルメディアなど)や位置情報を融合して、多様な顧客接点と新しい消費行動の流れを創るマーケティングやビジネスモデルを検討する。	■例示 【案】O2O(Online/Offline to Offline/Online)の潮流を踏まえた新しい消費者導線の創出	戦略立案・事業企画・マーケティング担当、情報システム担当

★支部毎に改めて募集テーマを絞ってご案内することがありますので詳しくは各支部事務局までお問い合わせください。

★上記募集テーマは変更する場合がございますので予めご了承ください。